

注意点1



ピックを弦に埋め込むイメージを持って弾こう

ダウン・ピッキングによるリブなくして、メタルは語れるはずもない。ここでは、筆者の得意技“ダウン・ピッキング”を解説しよう。まずリブでのダウン・ピッキングでは、ピックが弦の下に潜り込むように斜め気味に弾くことが大切だ(図1-a)。ピックを弦に埋め込む感覚で弾き、結果として6弦が指板のフレットに打ちつけられる感じになれば良いだろう。これによりコンプレッサーのなかったようなドンシャリ・サウンドが生まれるぞ。またダウン・ピッキング後は、直線的な軌道で戻ることが大切(図1-b)。これにより無駄のない速いダウン・ピッキングを連打することができる。

図1-a ダウン・ピッキングの角度

○ 角度をつけて、ピックを弦に埋め込む感じで。 × ピックを指板に対して平行に下ろすのはNG。



図1-b ダウン・ピッキングの戻りの軌道

○ 弾いた弦に当たらない程度に直線的な軌道で。 × 大きな軌道では、無駄が多い。



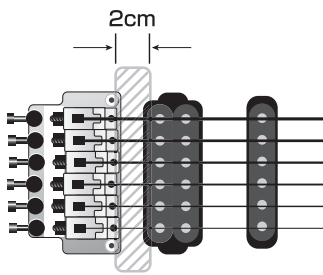
注意点2



重低音を生み出す鍵はブリッジ・ミュートにあり!

メタリカやパンテラなどのようなパワフルかつヘヴィなディストーション・サウンドを生み出すためには、右手の手刀部分でブリッジ・ミュートして(ブリッジ付近の弦を軽く触れて)弾くことが大切だ(図2 & 写真①)。ただし、弦に触れる力加減によって、サウンドは大きく変わってしまう。最も良いのは、“触れている”と“押さえつける”の間ぐらい。言葉で伝えるのは難しいが、触れている状態だと低音がモッロリした音になり、押さええた状態だとアタック音だけしか聴こえない。この両方のおいしいところを交えた音……“ズン!”を目指して、力加減をいろいろと試してほしい。

図2 ブリッジ・ミュートの位置



ブリッジから2cm付近までを軽く触れる。

1



ブリッジに触れる力加減が肝。いろいろと研究し、心地良い重低音を出そう。

注意点3



ミュートのオン／オフでサウンドの差を出そう

このフレーズを弾く際に気をつけてもらいたいのが、アクセントの位置。こういったヘヴィ・リフでは、“ズンズン”というミュート音とノン・ミュート音のサウンドの差をハッキリと出した方がカッコ良い仕上がりになる。つまり、このノン・ミュート音にアクセントを入れられるのが大きなポイントとなるのだ。このフレーズでは6弦をミュート、5弦をノン・ミュートで弾いている。ここで2つのピッキングの強弱に気をつけてもらいたい。ただし、ノン・ミュートにアクセントを入れようとするあまり、ミュート音が小さくなり過ぎるのも禁物。ブリッジ・ミュート音は、弦に触れて鳴らしているので、もともと音が出づらい。多少強めにピッキングすることが大切だ。

2



ミュートをかけているので、少し強めにピッキングする。

3



5弦に少し触れるぐらいの勢いを目指そう。